

こんなにすごい わらべ歌の効用

	元気な体を作る	器用に動かせる手を作る	見る・聞く・話す力を育てる	心が育ち、知力が向上する	人と気持ちを分かち合い、 社会の一員になる
どんぶらこ	「揺れる」動き ⇒バランスを取る力 ⇒体の筋肉をじょうずに使 いこなす力	おとなにしがみついたり、つかま ったり。 自分からつかまる力は器用な手へ の第一歩。	体が動いている ⇒おとなの声が聞き取りやす い	最後に「どっすーん」と大揺れ する楽しみが大切。⇒見通し を持って待つ力のおおもとで す。	ちょっと怖いけど、おとなが一緒だか ら大丈夫！ という安心感を学びま す。
ひげいさん	坐ると下半身が安定します。 すると上半身(腕や肩)を安 心して、意識して動かせま す。	げんこつでの両手交互の動き。 腕全体の大きな動きは微細な器用 な動きの基礎です。	「とんとんとんとん」という繰り返 し ⇒次のことばへの注目度を高 めます	ほっぺ、あごなどの場所(身 体部位)に手が触れることで 自分の体の感じ(ボディイメ ージ)がつかみやすくなります。	ボディイメージは「自己意識」「自我」 の確立のために大切な要素
あたま肩ひざボン	触れることで体の部位を意 識します。	手を「あたま」「肩」「ひざ」と順序よ く動かす。 思い通りに動かせる手は「製作」 や「お絵かき」の基礎。	大人が楽しいリズムと一緒に 体の位置を示してくれるので、 注目しやすくなります。	あたま・肩・ひざは、体の部位 の中でも大事なポイント。しっ かり意識できることが大事。	「ひざボン」の間じゅう次はどこかな？ と期待して待ちます。じょうずにでき てうれしい気持ちを共有します。
ちよちよちあわわ	口も手も、触れることでその 存在に気づきます。「存在に 気づく」ことが「じょうずに動 かす」ための基礎	「手を合わせ⇒片手だけを口に運 び⇒左右逆に回転させ⇒一本指 を立てて反対側の手に触る」。 一連の順番のある動きが手の動き を高めます。	無意味だけれどおもしろい音 の連続。 音への注目や発音をまねよう とする力を育てます。	《何だか分からないけれど楽し い気持ち》が学習の基礎で す。	おとなが手を添えてやってくれる「あ ーわーわ」から自分ひとりでやってみ る「あーわーわ」へ。 自立の前提は親しい人に十分に支え られる経験です。
糸をまきまき	座った姿勢 ⇒安定感がある。 注目する力がよく働きます。 上半身の自由度も増します。	ゲンコツをつくり⇒体の前で回し ⇒左右に広げ⇒体の前でトントン という、順番のあるなめらかな動き が身につきます。	うたやリズムの助けがあるの で、心地よく、楽しく聞けます。	最後に何かが「できる」という 目標に向かって楽しく参加で きます。	「できたもの」をおとなと一緒に見て確 認。このことを「共同注意」とか「三項 関係」とか言いますが、ことばの基礎 になる力です。
いっぼん橋	くすぐり遊びは、楽しい中で 全身の筋肉を緊張させる、大 切な経験。 筋緊張は「歩く」ための基 礎。	「してもらい」遊びですが、他人が 手に触れてくれることで、「手」に 強く注意を向けることができます。	「階段のぼって・・・」のところ で わざと少しリズムをくずすと、 触られている部位に注意を向 けやすくなります。	「こちょこちょ」「たたいて」「つ ねって」「(階段を)のぼる」な どのことばが動作と一緒にな って自然に覚えられます。	くすぐりが来るかな、来るかな？と期 待して待つ、くすぐられて笑う、笑顔 を親子で共有する。どこをとっても申 し分のない遊びです！